

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272700741		
法人名	社会福祉法人信和会		
事業所名	グループホームこもれびの家		
所在地	青森県八戸市南郷大字島守字中野沢22-1		
自己評価作成日	平成28年10月11日	評価結果市町村受理日	平成29年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然豊かな場所にあり、鳥の囀りや虫の声を聞きながら、季節の移り変わりを身近に感じて生活することができる。 夏祭りや文化祭等、法人で行う大きな行事を楽しめる他、冬季以外は外出行事を企画し、気分転換をしていただいている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>特別養護老人ホームをはじめ、地域一帯に母体法人の施設が多数ある他、緑に囲まれ、季節の移ろいを肌で感じられる環境にある。身体拘束廃止委員会等、法人内委員会による内部研修の機会も充実しており、協力医療機関の定期的な往診が行われ、法人看護師を介して重度化への対応を明確にしている他、法人内施設と連携を取りながら、終末期を見据えた支援に取り組んでいる。また、非常災害時等は、敷地内の職員寮から駆けつけて支援する体制も整っている。 利用者は職員との散歩の道すがら地域住民と挨拶を交わしたり、自治会の清掃活動に加わる等して、馴染みの関係を築いている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員各自が自分達の役割を自覚し、理念を常に心に留められるように、目につく所に掲示している。理念に基づいたケアができているか、ミーティングで話し合いをしている。	母体法人が築いてきた、地域との密接な関わりが理念の根底に流れており、職員の意識に根付いている。ホームでは理念を掲示している他、毎朝の申し送り時に確認して意識を高めると共に、日々のケア場面を振り返り、ミーティングの場で共有しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、清掃業務等に参加する等して、地域住民との交流の機会を大切にしている。	町内の草刈りや清掃活動に参加している他、散歩の際は地域住民と挨拶を交わす等、馴染みの関係を築いており、法人恒例の夏祭りや文化祭にはチラシを配布したり、ポスターを掲示して参加を呼びかけている。また、中高生の職場体験の受け入れの他、法人としてボランティアや保育園児の訪問も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩等を通じて、近隣住民や通学帰りの生徒に挨拶をしている。また、運営推進会議の場で、認知症の方への支援の取り組みについて説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方、市職員から意見や情報をいただき、ミーティングで職員へ周知して、サービスの質の向上に活かしている。	市担当課職員や家族代表、自治会役員等の参加を得て、活動内容や利用者の状況等を報告し、メンバーそれぞれの立場から質問や提案が出されており、自治会との合同防災訓練の実現も目指している。また、家族全員に開催案内を送付し、会議の意義や趣旨の理解を促している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議において情報交換を行っている。	運営推進会議を通じて行政からの最新情報が提供される他、その都度、利用者に関わる事務手続きや問題解決のための助言や協力を得ている。また、市主催の研修を受講し、研修委員会を通じて全職員が内容を共有することで、サービスの質の向上、充実を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の委員会を設置し、研修を通して身体拘束をしないケアの理解を深め、職員間で共有して取り組んでいる。	法人内に「身体拘束廃止委員会」を設置し、定期的な研修を通じて、全職員の理解を促して認識を深めている。玄関には錠を付けて施錠せず、外出傾向のある利用者は見守りを行い、付き添いながら散歩を支援しており、「脱園対応マニュアル」も作成して有事に備えている。また、やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、説明同意書及び経過観察記録の様式も整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部、内部の研修に参加している。また、業務の中で虐待となっている事がないか、職員同士で確認し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを利用し、いつでも学ぶ事ができる。また、内部研修の一つに取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には時間をかけて丁寧に説明を行い、家族の不安や疑問の解消に努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望の受付窓口を明示している。外部からの苦情は施設内の委員会で話し合い、利用者の立場に立った改善策を出せるように心がけている。	利用者の言葉に耳を傾けている他、面会時に家族との交流を深め、毎月、担当職員がお便りで利用者の暮らしぶり等を報告している。また、「苦情委員会」による家族へのアンケート調査も行い、意見等を収集している他、職員の異動時は口頭で伝えると共に、スタッフポートレートを玄関に掲示し、周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の運営会議、改善会議に出席し、職員の意見や提案を反映させるよう努めている。また、ミーティングにて周知している。	法人内で定期的な個人面談の機会が持たれている他、利用者受け入れ等の決定事項についても、職員に伝わる仕組みが整えられている。また、毎朝の申し送りや毎月のミーティングの場で出された意見は、更に毎月の運営会議や改善会議の場で、管理者から運営者に伝わり、反映される体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人独自の評価があり、目標や評価を見直す機会がある。個人面接を行ったり、資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や力量に合わせ、外部研修への参加を実施している。また、法人全体では研修委員会による伝達研修等を企画し、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との情報交換やネットワークづくりができる意識を持ち、グループホーム協議会研修、グループワークに参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族等で見学していただき、本人の困っている事や不安をよく聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問を行い、家族の不安や意向等を十分に聞き取り、対応できる事、できない事等を説明し、理解していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を整理し、必要な時は他サービスにも相談しながら、本人や家族にとって最適な方法か検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からは昔の風習や料理の方法、戦争時代の苦しい体験等を聞き、学ぶ事が多い。人生の大先輩として尊敬し、関わりを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常の様子を報告して、困り事があれば家族に相談し、また、家族からの相談を受け、お互いにヒントやアイデアを出し合いながら、共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人が面会に来られたり、行きつけの美容室へ出かけたりと、関係が途切れないようにしている。お盆やお正月には帰宅できるように、家族に声がけている。	利用者との会話等から把握した馴染みの場所を外出行事に取り入れたり、お盆や正月の帰宅支援を家族に働きかけている。また、家族を介して行きつけの美容院を継続して利用したり、利用者の希望に応じて近くの商店への買い物支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の身体状況や性格を考慮し、テーブルの位置や居室を工夫している。職員が間に入り、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人の状況を電話等で聞いている。他サービスを利用していても、機会があれば声をかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人より話を聞いたり、表情や行動で思いや意向を把握するように努めている。家族には電話や面会時に様子を伺い、本人に寄り添うようにしている。	家族等からの情報はもとより、利用者一人ひとりに語りかけ、その思いを引き出すことで、日々、理解を深めるよう努めている。ホームでは入浴時等、打ち解けて話のできる機会を重視しており、職員間で利用者の思いや意向を共有し、状態変化を見逃さないケアを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りをしている。入居後も会話の話題として取り上げ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個別の申し送りで把握し、状態の変化には、カンファレンスを行い、ケアプランに取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの情報も活かし、職員で話し合い、介護計画を作成している。	毎日の申し送り時に問題点を発表し合い、毎月のミーティング時に全職員で細かく検討しながら目標を抽出し、介護計画を作成している。また、3ヶ月から6ヶ月の実施期間を明示している他、毎月の評価を行い、随時状態変化に応じた見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日行っている。また、申し送りを通して情報を共有し、介護計画に活かすことができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、入退院の送迎介助の他、本部のリフト浴を利用できる。また、健康管理には本部の看護師によるフォローを受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力を得て、防災訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で決めている。また、受診は原則家族が行い、本人の状態を把握しているが、家族が対応できない時には事業所が対応し、適切な医療を受けられるようにしている。	協力医療機関と認知症専門医が、それぞれ月1回の往診を行っており、それ以外の受診科目については家族が対応し、緊急を要する場合はホーム支援となっている。また、併設施設の看護師を介して、医療機関との連携を迅速に行い、往診ノートも活用しながら、状態把握がしやすいように工夫し、家族との連絡も密に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部の看護職員と連携をとり、健康管理や急変時に協力をいただいている。いつでも相談できる環境にあり、夜間連絡がとれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院にあたり、情報提供をしている。入院中、家族に電話で状態を確認し、また、入院先へ行き、経過を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針はないが、重度化した際に家族や主治医と話し合い、今後の方向性を決めている。	併設施設の看護師との連携により、状態に応じた重度化への対応は行うが、複数の施設を備えた法人全体で支援する方針を採り、ホームとしては終末期への対応は行わない旨を、入居時に家族等に口頭で説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法を内部研修で学んだり、救急救命の講習を全職員で受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。地域の協力が得られるよう、運営推進会議で自治会を通して呼びかけていただいている。	年2回、所要時間を計測しながら避難誘導訓練を実施しており、自治会との共同防災訓練の実現を目指して取り組んでいるところである。有事の際は敷地内の職員寮から駆けつける体制を整えており、消火器等の設備点検や避難路の確認の他、食料や水、発電機、暖房器具等は法人全体で管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人としての尊厳を守り、表情や言動に気を付け、言葉かけや対応を注意し合っている。	接遇マニュアルに沿って法人内の研修を定期的実施している他、全職員がプライバシー保護の立場に立ち、日々のサービス提供に取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりの思いに寄り添い、日々の暮らしに安らぎを感じていただける支援を目指しており、毎朝の申し送り時に情報共有を図りながら、問題点を抽出した上で、迅速な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりとわかりやすく話し、利用者が自分で決められるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や水分補給、体を動かす時間等、ある程度流れを決めているが、あくまでも利用者のペースに合わせ、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、理美容院の方が来られ、利用する際は本人より確認を取り、希望に合わせてカットしていただいている。洋服を選ぶ際も、本人に確認しながら選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備をしながら、旬の食物を取り入れ、季節を楽しんでいる。また、一人ひとり、食事を食べた後の食器を片付けている。職員も同じテーブルで、会話をしながら食事をしている。	法人栄養士の献立に沿って職員が調理しており、利用者は下拵えや食器洗い、下膳等、できる事を職員と一緒にやっている。ホームでは利用者の嗜好や健康状態を見極め、苦手な物の代替の他、お粥やミキサー食も提供しており、職員も利用者と一緒にの席に着き、楽しい食事時間となるよう、さりげなくサポートしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日記録し、不足している方には嗜好品等で捕食して、必要量の確保に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で磨ける方は声がかけて行い、磨けない方は介助にて、毎食後支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し、個々の排泄パターンに沿って、トイレの声がけや誘導を行っている。	排泄表の記録を目安に、適切な事前誘導や排泄介助の支援を行っており、介護計画にも取り入れながら、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、職員の共通認識の下、プライバシーに配慮したケアを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の生活習慣や水分、食べ物、食べる量、運動等を考慮しながら、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとりの好みの温度調節をして、急かさない対応を心がけている。希望により、午後入浴も可能である。	週2回入浴時は、利用者と一対一で打ち解けた話をする機会と捉え、できる限り利用者個々の好みに沿ってゆっくと支援している。ホームでは好みの湯加減や午後入浴等にも対応しながらも、安全確保には細心の注意を払っている。また、入浴拒否にも柔軟に対応し、時間をおいて声がけしたり、別の日に誘う等の工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え、夜間の良眠を図っているが、日中でも休息したい方には居室で休んでいただいたり、ソファで横になっていたっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに綴じ、全職員に周知している。内服確認を行い、症状の変化については、随時かかりつけの病院と連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等、今までできていた事を活用し、役割として継続していけるように支援している。また、月1～2回の行事計画を立て、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の周りを散歩されたり、歩くのが困難な方でも車イスを利用して外の風にあたり、気分転換できるよう支援している。	冬期間以外は月1～2回の行事を計画し、無理のない範囲でドライブや祭り見物等を行っている他、利用者の希望に応じて、近所のスーパーに買い物に出かけることもある。また、日頃から、周辺の散歩時に地域住民と挨拶を交わし、利用者の気分転換を図っている他、夏祭りや文化祭等の法人の恒例行事や、併設施設で行われる行事にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方には家族と相談し、お金を持ち、買い物の希望があれば応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には自由に電話をかけられるが、相手の都合もあるため、確認を取りながら電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、季節毎に、その時期に合った飾り付けをし、季節を確認できるよう働きかけている。	食堂ホールは高い天窓から日差しが差し込み、明るく開放的であり、ソファやテーブルに穏やかに寛ぐ利用者の姿が見られる。ホーム内は床暖で温度管理され、大型加湿器や洗濯物をかけて乾燥対策がなされている。また、手作りのカレンダーや季節の飾り付け、行事のスナップ写真等も掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓テーブルの他、少し離れた場所に小さいテーブルを置き、気の合った利用者同士で過ごせるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を持ち込み、安心して過ごせるよう、家族に伝えている。写真や仏壇を持ち込んでいる。	愛読書を傍らに置き、読書を日課にしていたり、お気に入りのぬいぐるみや人形を飾っている他、利用者の手作り作品や写真等を掲示する等、家族の協力と担当職員の工夫により、利用者が居心地良く過ごせる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが設置されており、移動の際に使用している。洗面台が各居室にあり、できる限り自立できるようにしている。また、利用者がわりやすいようにトイレ等の目印を付け、排泄の自立を支援している。		